

■ワークブックについて

【タイトル】

奈良市教育旅行用ワークブック「奈良×探究」

～1300年の歴史を感じながら、自分たちの未来を描いていこう～

【コンセプト】

奈良市の持続する魅力を体感し、自分たちの地域の魅力について考える

【構成】

2021年度より新学習指導要領が全面実施され、自らの設定した課題の解決に向け、探究学習を実施することが求められるようになりました。

1300年の歴史を持つ奈良では、これまでの伝統の継承と、それらを調和させながら新しいものを残す取り組みを見いだすことができます。そういった探究的な視点から奈良を見つめるサポートができるワークブックとなっています。

【デザイン・工夫】

- ・全体的にイラストを使用することで親しみやすいデザインになっています。
- ・教科書に載っていないような、興味関心を引き出すトピックを多数掲載し、各テーマにサブタイトルをつけることでコラムのように読み進めることが可能になっています。
- ・古地図をワークに入れることで、教科横断型の学びとの接続を意識した作りになっています。
- ・事後学習において奈良と自地域を置き換えて考えることで、継続した学びが得られる内容となっています。



2つの探究テーマで奈良市を見てみよう!

約1300年前につくられた平城京は、当時、国際都市として栄えた唐(中国)の長安を見本としてつくられた唐やかな都でした。

平城京の時代は、国の平和を願って寺院や大仏が建てられ、仏教文化が花開きました。遣唐使や大陸から渡ってきた外国人によって高い文化も伝わりました。東大寺の正倉院には唐やインド、ペルシア(シルクロード)からたどり着いた宝物が数多く残っています。

奈良がローマから続くヨーロッパの「東西の終着点」であったことは、残された寺、集まり、門前などから読み取ることができます。

大仏の造り手、大仏の守護者、大仏の鑑賞者も、平城京の歴史を語る上で欠かせません。平城京の歴史を、はるか1300年前から続く流れが定まるところで感じられます。

たとえば、大極殿や東御門が復元された平城宮跡、東大寺や興福寺などの建造物では、当時の建築様式や文化に触れます。

それらを確立した歴史上の人物、仏教を広めるために大陸から渡ってきた僧侶たち、奈良を愛した芸術家など、現在の奈良市は長い歴史の中の一つの瞬間を今に伝えています。

くさんの人々の思いが集まって形成されています。

この、人と建造物という2つをテーマに奈良市を探究してみましょう。自分で決めたテーマについて、歴史、文化、景観という視点でも掘り下げていくことは、奈良市のこれまでの1300年を知り、これからの1300年について考えるヒントを見つけることにつながるでしょう。

2つのなら探究テーマ

テーマ① 建造物

歴史の遺跡の多い奈良市には、大仏や大極殿、東大寺や興福寺などの建造物が残っています。その中でも、平城京の時代には、唐やインド、ペルシア(シルクロード)からたどり着いた宝物が数多く残っています。

テーマ② 人

平城京時代に活躍した天皇や貴族、遣唐使や僧侶から渡ってきた僧侶、奈良時代の生活者など、平城京の歴史を語る上で欠かせません。

ならをひも解く3つの切り口

歴史

どのような経緯で建てられたのかを調べよう。その後の歴史の中で役割がどう変遷していったのか、また現代の家にはどんな意味があるのか、さらに今後、その役割がどう変わっていくのかを考えてみるのもよいでしょう。

文化

取り上げた人が、当時どのような思いで奈良に関わったのか、その思いがどのような行動につながったのか、また現代の役割がどう変化したのかを考えてみるのもよいでしょう。

景観

建造物と自然が調和した奈良の景観は、歴史の中でどう形成されていったのかを調べよう。また、その景観をどう引き継いでいたのか、また今後どうやって残していくのかについて考えてみるのもよいでしょう。

歴史の遺跡を大切にすると同時に、自然環境を未来に残す活動など、奈良の景観に対する人々の思いに焦点をあててみましょう。景観と人の関わり方を調べたり、自然と調和することをどう暮らしに生かしてきたかなどについて考えるのもよいでしょう。

親しみやすいデザイン

幅広くテーマを選択できることで、個人のレベルにあった学習が可能

教科書には載っていないトピックが満載

■事前学習動画について

【タイトル】

奈良市事前学習動画～奈良なんでだろうの旅～

【構成】

奈良市観光協会の公式マスコットキャラクターの“しかまろくん”と生徒の“ぼく”が奈良市の疑問を考え、「奈良なんでだろうの旅」に出かける内容になっています。

奈良での学び方やワークブックの進め方など生徒たちがより取り組みやすいように促す動画になっており、インタビュー動画をいれることで、現地の言葉で奈良の不思議について学ぶことができます。また、ワークブックへの興味関心を引き出すだけでなく、事前学習教材としての使用できる仕組みになっています。

【デザイン・工夫】

- ・ワークブックと連動しており、親しみやすいデザインや登場人物となっています。
- ・クイズなども取り入れることで見る人を飽きさせない、見ていて楽しい内容になっています。
- ・全体を通し豆知識的な要素をふんだんに盛り込み、生徒が疑問を抱きやすい工夫をしています。
- ・世界遺産 元興寺の僧侶のインタビューを入れることで、対話的な学びを示唆できる内容になっています。



■奈良市教育旅行用ワークブック「奈良×探究」教員用指導書について

ワークブックがあっても、土地勘がない奈良のことをどうやって教えるのか？そういった先生方の声をヒントに奈良市教育旅行用ワークブック「奈良×探究」の教員向け指導書を制作しました。

事前学習から事後学習までの流れを解説することで、先生方の理解も深まる内容となっています。

また、この資料には「総合的な学習（探究）の時間」を意識した授業例を掲載しており、学習のイメージが湧きやすく、先生方の事前準備の負担を軽減することができる作りにもなっています。

